２０２６年１１月２０日
日本銀行大阪支店

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西景気の総括判断を、「一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している」として据え置きました。輸出・生産は、グローバルなＡＩ関連需要の拡大を受けて緩やかに増加しています。また、エネルギー・原材料価格上昇の影響を受けつつも、企業収益は高水準で推移しています。こうしたもとで、個人消費や設備投資などの内需は緩やかに増加しています。以下、特徴的な動きについて説明します。

第一に、輸出・生産は、緩やかに増加しています。中東情勢の影響を受けつつも、グローバルなＡＩ関連需要の拡大を背景に、資本財や情報関連を中心に増加しています。こうしたもとで、関西の上場企業の２０２６年度の中間決算は高水準で推移しています。

第二に、雇用・所得環境は、緩やかに改善しています。労働需給が引き締まった状態が継続する中、賃金は着実な上昇を続けています。この間、最低賃金は、昨年に続き高い上昇率での引き上げとなっているほか、大阪府内企業の冬季賞与については、途中集計値をみると、前年を上回る支給額となりそうです。先行きも雇用・所得の改善が持続していくのか、注意深く点検していきたいと思います。

第三に、個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに増加しています。物価上昇の影響を受けて、非耐久財（飲食料品・日用品等）を中心に節約志向の高まりがみられるものの、雇用・所得環境の改善が続くもとで、サービス消費が堅調に推移しているほか、当地においては、阪神タイガースのリーグ連覇を受けた優勝セールも下支えとなった模様です。また、インバウンド需要は、引き続き高水準で推移しています。先行きは、雇用・所得環境や物価の動向を踏まえながら、個人消費の動向を丹念に点検してまいります。

先行きの関西経済の動向を点検していくにあたっては、今後の中東情勢やグローバルなＡＩ関連需要が経済活動に及ぼす影響について、注意深くみていく必要があります。

以　上